

日本語(国語) 【中1】 指導カリキュラム

日本語テキスト



ユニット・指導内容・指導単元一覧表

- 1 ユニットの指導モジュール配分は、日本語力のステップに応じて比率を決める。
現在の日本語力レベルと現在の学年の学習内容、1 ユニット・モジュール配分比率は、概ね下記のようにする。

	ステップに応じた指導内容	:	現在の学年学習内容
【S1】	8	:	2
【S2】	7	:	3
【S3】	5	:	5
【S4】	2	:	8

『指導ユニット・モジュール数配分例』

31	:	8 (モジュール数39モジュールの場合)
19	:	8 (モジュール数27モジュールの場合)
9	:	9 (モジュール数18モジュールの場合)
2	:	7 (モジュール数 9モジュールの場合)

日本語(国語)【中1】4月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 4月 ユニット・指導内容・ステップ				
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7				
ユニット 『観点』・日本語テキスト		指導内容		
野原はうたう 詩の音読 『読む』		「気に入った言葉に気持ちをこめて、声に出して読んでみよう」 ◎詩の中における語句の意味を的確に捉える。 ◎音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深める。 ★詩を音読する。 【S1】 生き物になったつもりで、情景や心情を想像しながら音読する。 【S2】 速さ、声の強弱、間の取り方、声の高さや調子を変えて音読する。 【S3】 詩に表現された語句の意味に注意する。 【S4】気に入ったところに印を付けたり、線を引いたりしながら読む。		
【語彙・表現】野原はうたう あしたこそ たんぼぼはるか ひかりを おでこに くっつけて はなひらく ひを ゆめにみて たんぼぼわたげが まいあがります とんでいこう どこまでも あした たくさんの「こんにちは」に であうために		おれはかまきり おう なつだぜ おれは げんきだぜ あまり ちかよるな おれの こころも かまも どきどきするほど ひかってるぜ おう あついぜ おれは がんばるぜ もえる ひをあびて かまを ふりかざす すがた わくわくするほど きまってるぜ	あきのひ のぎくみちこ かぜが とおりすぎました わたしは はなびらを ゆすりました だれかに よばれたきがして ふりかえると ゆうひが くるくると しずむところでした	いのち けやきだいさく わしの しんぞうは たくさんの ことりたちである ふところに だいて とても あたたかいのである だから わしは いつまでも いきていくのである だから わしは いつまでも いきていて よいのである
声を届ける/書き留める/調べ る/続けてみよう 情報の整理		◎話す速度や音量、調子や間の取り方に気をつけながら、場にに合わせて話す。 ◎日常生活の中からテーマを決めて材料を集め、自分の考えを明確にして書く。 ◎文章の中の語彙について関心をもつ。 ★集めた情報を整理し、記録する。		

『話す』
『書く』

- 【S1】 自己紹介を行う。
・ 自己紹介文を書き、その紹介文を発表する。
・ 速度や音量、調子や間の取り方などに気をつける。
- 【S2】 ノートの書き方、工夫の仕方を理解する。
- 【S3】 図書館の活用方法や辞書・インターネットなどの調べ方を確認する。
・ 辞書の使い方、調べ学習の方法を確認する。

【語彙・表現】 日本語の音声

・ 母音と子音

日本語の音は、母音（a・i・u・e・o）と子音（k・g・s・zなど）の組み合わせでできている。

〈例〉はなびら＝h・a・n・a・b・i・r・a

一つ一つの母音を相手に届けるように意識して話すと、はっきりした発音になる。

・ 音の高さ

アクセント

言葉の中にある音の高低をアクセントという。同じ言葉でも、どの音を高く、どの音を低く読むかで意味が変わることがある。

イントネーション

文全体の音の高低をイントネーションという。文の最後を上げるか下げるかで意味や調子が変わることもある。

国語辞典

言葉の意味・使い方・漢字での書き表し方などを調べたいときには、国語辞典を使う。

漢和辞典（漢字辞典）

漢字の読み方・成り立ち・意味、その漢字を使った熟語の意味などを調べたいときには、漢和辞典を使う。

- 【引き方】
- ・ 読み方がわかるとき→音訓索引
 - ・ 部首がわかるとき→部首索引
 - ・ 読み方も部首もわからないとき→総画索引

類語辞典

意味が似ている言葉を集めた辞典。意味のちがいや言葉の使い分けについてくわしく説明してある。

ことわざ・慣用句辞典

たくさんのことわざや慣用句を集めて、意味や使い方について説明した辞典。

古語辞典

古い時代に使われていた日本語を集めて、意味や使い方について説明した辞典。

百科事典

あらゆる分野の事柄を五十音順などに並べ、その一つ一つを説明した本。何かについて調べたいとき、どんな資料を調べればよいかわからないときには、まず百科事典を調べると、基本的なことがわかる。

日本語(国語)【中1】5月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 5月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット 『観点』・日本語テキスト	指導内容
花曇りの向こう 場面や登場人物 『読む』	◎場面の展開や登場人物の描写に着目して、内容を読み取る。 ◎作品の展開に注意して、登場人物の気持ちの変化を捉え、題名に込められた意味を考える。 ◎作品の中における語句の意味を的確に捉え、内容を理解する。 ★ 場面や登場人物の描写に着目して物語を音読する。 【S1】 四つの場面に分け、時・場所・登場人物を確認する。 【S2】 僕の気持ちがわかる様子や行動、会話を押さえる。 【S3】 冒頭と結末を比べ、気持ちの変化が表現されている風景や物を考える。 ◇ 表現に着目させ、変化を読み取らせる。 【S4】 僕の気持ちの変化を整理し、作品の題名に込められた意味を考える。
【語彙・表現】 そんなん言うたら パッチワーク 食べてんと 食べとき 通算 多いねんな 持て余す 放棄 か細い はやる やり過ごす 思ててん せやねん たどたどしい とどこおる 提げる (さげる) 【新出漢字】 厄年 製菓 曇天 介護 稚魚 果汁 歓喜 棚上げ 荷車を押す 抑圧 俺の弟 僕の宝物 抜群 振動 欲しがる 提げる	
漢字を確認しよう 小学校で学習した漢字 『漢字』	◎文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。
【新出漢字】 煎茶 墨絵 地殻 斬新 奇異 税込み 歩幅 勧告 華道 揚げ物 紹介	
季節のしおり 春 春の情景 『季節』	◎二十四節気の言葉や春の情景を歌った唱歌の歌詞や詩などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。
【語彙・表現】 さくら さくら、 野山も、里も、 見わたす かぎり かすみか、雲か、 いちめんのなのはな いちめんのなのはな いちめんのなのはな いちめんのなのはな	

朝日に におう。 さくら さくら、 花ざかり。	いちめんのなののはな いちめんのなののはな いちめんのなののはな かすかなるむぎぶえ いちめんのなののはな
立春 りっしゅん 暦のうえで春になる日。現在の2月4日ごろ旧暦では1月の初めごろだった。 啓塾 けいちつ 冬ごもりから虫が地上に出てくるとい意。現在の3月6日ごろ。旧暦の2月。 清明 せいめい 天地が清々しい空気に満ちる季節ということ。現在の4月5日ごろ。旧暦の3月。	
わかりやすく説明しよう 観点を立てて書く 構成を考える 『文』	◎身近な生活の中から、伝える目的や相手を明確にして情報を集める。 ◎説明する観点を決めて情報を整理し、わかりやすい構成を考えて書く。 【S1】 伝える目的や相手を決め、お気に入りの場所を紹介する文章を書くことを確認する。 【S2】 身近な場所、思い出の場所などから、説明する題材とその情報を集める。 ・ 「マッピングの例」を参考にして情報を集める。 【S3】 書く観点を決め、情報を整理する。 ・ 集めた情報を観点別に整理し、必要な情報を選択する。 【S4】 わかりやすく伝えるための構成を考える。 【S4】 構成メモを基に400字程度で書く。「文章の推敲・原稿用紙の使い方」
【新出漢字】 手柄 便箋 沈下	
漢字の組み立てと部首 『漢字』	◎漢字の組み立てと部首を理解する。 【S1】 教科書のイラストを基に、漢字の組み立てを考える。 【S2】 偏旁冠脚と部首の種類を理解する。 【S3】 漢和辞典を利用して練習問題を解く。
【語彙・表現】 へん・つくり・かんむり・あし・たれ・によろ・かまえ 【新出漢字】 劣 袋 懸 疲 腎 汚 昇 癖 訴 泰 越 頑 恭 超 襟 悩	

日本語(国語)【中1】6月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 6月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 42：10 【S2】 25：11 【S3】 12：12 【S4】 3：13	
ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
ダイコンは大きな根？ 説明文・段落『文』	◎段落の役割に着目しながら、事実と意見を読み分け、文章の内容を捉える。 ◎筆者の説明のしかたの工夫について考える。 ◎身近なものについて説明された文章を読み、文章の中で使われている言葉の意味や内容を捉える。 ★意味が伝わるように、説明文を正確に音読する。 【S1】 作品を通読し、初めて知ったことをノートにまとめる。 ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。 【S2】 各段落の中心となる内容を20字程度でまとめる。 【S3】 「問い」を投げかけている段落と、それに対する「答え」を示している段落を探す。 また、それ以外の段落がどのような役割をもっているのか考える。 【S4】 筆者は、わかりやすく説明するためにどのような工夫をしているか、考えたことを話し合う。
【語彙・表現】 細胞 生物の体を構成する基本単位。 化学反応 元の物質が変化して、別の物質が、できること。化学変化ともいう。 【新出漢字】 史跡 七分咲き 地下茎 甘言 蓄積 普通 辛苦 胞子 双方 較差 決壊 伸縮 恩恵 描写 車軸 隠居 魅力	
ちょっと立ち止まって 文章と図の関連・段落と段落の関係『文』	◎文章と図の関連や段落と段落の関連に注意して文章の構成を捉える。 ◎筆者の考えを基に、自分のものの見方や考え方を広げる。 ◎文脈における語句の意味を的確に捉える。 ★文章と図との関連に注意しながら説明の文章を読む。 【S1】 図との対応に注意しながら、全文を通読する。 ・ 筆者が図を基に挙げている事例について確認する。 ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。 【S2】 本文を三つのまとまりに分け、それぞれの内容を捉える。 【S3】 本論を幾つかに分け、筆者の説明を理解し、三つのまとまりをそれぞれ要約する。 【S4】 文章全体を通して、筆者の主張を捉える。 「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。
【語彙・表現】 ……にすぎない 消え去る 過ぎ去る 立ち去る 忘れ去る 背景 意識 ……がち	

【新出漢字】 架空 化粧 壁紙 花を摘む 珍重 秀才 束縛 浮上 奥地 麗人 距離 近影 顎関節 夜露 手を離す 瞬間 即位 荒天 驚喜 【新出音訓】 化粧台 座る 試す 【新出漢字】 浜辺 日陰 砂嵐 夕涼み 虹色 嘆願 懷疑 水滴 水の泡 沢一 沢登り	
「好きなもの」を紹介しよう スピーチをする 話の構成や順序 『話す』	◎話の構成や順序を工夫し、自分の伝えたいことを整理し、相手の反応を踏まえながら紹介する。 ◎声の大きさや話す速さなど、話し方を意識して聞き手にわかりやすい紹介をする。 ★日常生活の中の話題について、スピーチで紹介する。 【S1】『好きなもの』の例を参考に友達に紹介する話題を決める。 【S2】話題を踏まえて、紹介する内容を決める。 ・「好きなもの」と出会ったきっかけ、好きになった理由 ・内容を整理し、まとめた内容を考える。 ・聞き手がわかりやすいように、話の構成や順序を考える。 【S3】1分以内に収まるようにスピーチの練習をする。
情報の集め方を知ろう 情報コラム ①本から情報を集める ②インターネットを利用する ③新聞の紙面構成の特徴を知る 情報の集め方 『読む』	◎本などから情報を集めるための方法を理解し、目的に応じて必要な情報の読み取り方を身につける。 【S1】どのような情報の集め方があるのか考える。 【S2】テーマを決めて、本から情報を集める。 ・記録カードの作り方を確認する。 【S3】テーマについて、インターネットを利用して調べる。 ・検索のしかたや情報源の明記について確認する。 ・録音や撮影のしかたを確認する。 【S4】新聞の紙面構成の特徴を理解する。 ・見出しやリード文などの効果について考える。
【新出漢字】 掲示 主催 記載 索引 把持 駐在 握手	
話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉 同音異義語 『語彙』	◎話し言葉と書き言葉の違いについて考え、それぞれの特徴について理解する。 【S1】導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。 【S2】音声の特徴から話し言葉を捉え、文字の特徴から書き言葉を捉える。 ・同音異義語の伝え方を理解する。 ・漢字、仮名、常体・敬体の使い方に注意する。
【新出漢字】 縦 違 曖 微 味 況 閱 踏 【新出音訓】 工夫 確認	

日本語(国語)【中1】7月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 7月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 21：5 【S2】 13：5 【S3】 6：6 【S4】 2：6	
ユニット 『観点』・日本語テキスト	指導内容
詩の世界 音読 『読む』	◎詩を読んで、語句の意味を的確に捉え、内容を理解する。 ◎詩の表現の特徴を捉えて読み、描かれた情景を想像する。 ★詩を音読する。 【S1】 導入の文章を読み、詩に込められた作者の思いなどを知る。 【S2】 「てがみ」「太陽」「魚と空」を音読する。 ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。 【S3】 詩の表現技法を理解する。 ・ 比喻などの表現技法を知る。 ・ 詩に表現された、独特な言葉の意味を確認する。 【S4】 3編から一つ詩を選び、情景を思い描きながら朗読する。
【語彙・表現】 高見 高い場所のこと。高み。 【新出漢字】 支払い 触発	
言葉を集めよう 紹介文 『書く』	◎観点を基に、多くの言葉を集め、その言葉を使って日常生活を題材とした紹介文を書く。 【S1】 導入の例文を読み、的確に伝えるために、さまざまな言葉の意味を知り、文脈に合う適切な言葉を見つけ出す必要があることを理解する。 【S2】 食べ物を一つ決め、観点を立てて言葉を集める。 【S3】 例文を参考に100字程度で、自分の好きな食べ物について紹介文を書く。 ・ 集めた言葉の中から、最適な言葉をいくつか選ぶ。
空を見上げて 文章の構成や表現の特徴 『読む』 『文』	◎言葉にはどのような力があるのかを読み取り、言葉について考えを深める。 ◎文章の構成や表現の特徴について、自分の考えをもつ。 ○文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くする。 【S1】 作品を通読し、文章の構成を理解する。 ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。 ・ 作品の構成を確認する。 【S2】 「五・七・五」の句に込められた思いや内容を読み取る。 ◇それぞれの句を巡る四つの出来事について理解させる。 【S3】 「みあげれば―」の句に、下の句をつける。

【S4】人の心を動かす言葉について考える。	
【語彙・表現】 つむぐ ためらう 連句 五・七・五の句と七・七の句を、一定の規則に従って交互に続けていく詩の形式。	
【新出漢字】 鮮明 身震い 光輝 被告 静寂 吉事 警鐘	
文法への扉 1 言葉のまとまりを考えよう 言葉の単位と働き 『語彙』	◎言葉の単位とその働きについて理解する。 【S1】導入の例文を読み、言葉の区切りについて考える。 ・ 例文を音読し、間を取った箇所を確認する。 【S2】「言葉の単位」を読み、言葉の単位とそれぞれの性質を理解する。 ・ 「文法とは」「言葉の単位」を読み、文法の定義や性質を確認する。 ・ 下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ・ 「読むことに生かす」を読み、段落に着目して読むことで、文章の内容や構成がつかみやすくなることを理解する。
読書生活を豊かに 光る地平線	◎ライオンの心情と他の登場人物の言動との関係に注意して読み深めよう。 ・ 作品の中で、印象に残った表現について発表しよう。
【新出漢字】 獣医 伝統 舞踊 威力 澄んだ音 圧倒 尋常 送迎 威嚇 崩落 誰もいない 鳥を狩る 柔道 暗闇 要塞 尽力 砂丘 よい匂い 匹敵 象牙 眺望 【新出音訓】 優しい（やさしい） 素直（スなお）	
季節のしおり 夏 夏に関する詩 『季節』	◎二十四節気という言葉や夏に関する詩などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。
【語彙・表現】 立夏 暦のうえで夏の始まりとされる日のこと。現在の5月5日ごろ。旧暦の4月。 芒種 昔、稲など、穀物の種をまいた時期を指す。現在の6月6日ごろ。旧暦の5月。 小暑 暑さが増してきて、暑中に入る日。現在の7月7日ごろ。旧暦の6月。	
漢字の筆順・画数	

日本語(国語)【中1】9月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 9月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
星の花が降るころに 『読む』	◎文脈の中で使われている語句の意味を捉え、情景を想像して読む。 ◎登場人物の気持ちや行動、場面の展開や描写に着目して読み、自分の考えをもつ。 【S1】 作品を通読し、印象に残った表現を抜き出して発表する。 ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。 ・ 印象に残った行動や情景に線を引く。 【S2】 場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化とその理由を整理する。 ・ 「私」の行動や気持ちに線を引き、整理する。 【S3】 情景描写と「私」の気持ちとの関係を考える。 ・ 「雪が降るように」など、様子や動きを何かにたとえた表現を探し、どのような情景や気持ちをたどっているのか考える。 【S4】 登場人物の気持ちを想像して、この後の作品の続きを考える。 ・ 書いたものをグループや班で交流する。
【語彙・表現】 銀木犀 香り 高じる 塾 先輩 隣 椅子 廊下 暇 ポプリ 芳香のある草花を乾燥させたもの。香りを楽しむために、袋などにつめて用いる。 誤解 意地を張る 挑戦 誘う なだめる とまどう きまりが悪い 背ける 騒々しい 唇 駆け寄る 貧血 遅い 履きかえる サバンナ 熱帯・亜熱帯地方の草原。雨季と乾季がはっきりと分かれている。 繊細 魂 溶け出す 探る(さぐる) 黙々 輪郭 なじむ 頬 拭く 常緑樹 一年中、緑の葉を付けている樹木。 意外 にじむ 刈り込む 大丈夫 首をかしげる 首を縦に振る 首を横に振る 首をひねる またたぐ 掃除 帽子 抱える 【新出漢字】 椅子 大騒ぎ 商魂 香水 画廊 赤い唇 溶液 塾生 休暇 駆使 黙り込む 輩出 挑発 遅刻 頬張る 隣人 誘導 履歴 手拭い 草刈り 背丈 一掃 学帽 抱負 【新出音訓】 背ける(そむける) 貧血(ヒンケツ) 探る(さぐる) 掃除(ソウジ) ・	
大人になれなかった弟たちに…… 『読む』	◎登場人物の行動や情景描写などに着目し、心情を読み取る。 ◎表現の特徴や時代背景を押さえ、作者の思いを捉えながら、自分のものの見方や感じ方を見つめ直す。 ★登場人物の心情を想像しながら、物語を音読する。 【S1】 作品を通読し、どのような時代の作品かを大きく捉える。 ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。 ・ 当時の生活の様子がわかる描写に着目する。 【S2】 「母」が食べ物をあまり食べなかったり、「僕」が「ヒロユキ」のミルクを盗み飲みしてしまったりした理由を考える。

	【S3】作品の描写を読み取り、登場人物の気持ちを考える。 ・「僕はあんなに美しい顔をみたことはありません。」の僕の気持ち。 ・「石釜という山あいの村」の描写。 ・「そのとき、母は初めて泣きました。」の母の気持ち。 【S4】作品に描かれた時代を考えながら、「大人になれなかった弟たちに……」という題名のもつ意味について話し合う。
	【語彙・表現】真っ最中 真っ赤 真っ暗 真っ先 おちおち 空襲 爆弾 寝る 掘る 畳 床 配給 戦争中は、不足した物資の販売を政府が統制し、消費者に一定量ずつを割り当てて配分していた。 どうてい 薄い 一缶 食いしん坊 盗み飲み 疎開 はるばる ……なり 疎開 四歳 頼む 揺れる 桃源郷 俗世間を離れたすばらしい別世界。地上の楽園。 胸をはずませる 胸が痛む 胸がいっぱいになる 胸を打つ 溪流 桃 渡る 交換 三里 一里は、約三・九キロメートル。 独特 乾く 遠慮 みとる どうとう ひもじい 爆撃 杉板 削る 棺 【新出漢字】畳語 疎遠 桃色 杉林 襲名 温床 歲月 渡航 削減 爆破 薄情 信賴 換気 納棺 話が弾む 空き缶 動揺 乾季 寝具 赤ん坊 岡山県 思慮 発掘 盗作 溪流 打撃 【新出漢字】添え書き 惑星 満塁 特殊 依存 芳名 調剤 購入 彫刻 口の中が渴く 喉が痛い ・
シカの「落ち穂拾い」 ——フィールドノートの記録から 『読む』	◎示されている事実と、筆者の考えとの関係を読み取る。 ◎筆者の考えの述べ方や、図表の役割と効果を考える。 ★文章と図表との関連を考えながら、説明の文章を読む。 【S1】グラフや表に注意しながら、全文を通読する。 ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。 【S2】筆者がどのような事実に興味をもって、調査を始めたのかを確認する。 筆者は観察で得たどのような事実をもとに、どのような仮説を立てたのか理解する。 筆者が上げた二つの仮説は、どのような事実によって検証されたか確認する。 【S3】仮説の検証を通じて、筆者はどのようなことを知り、どのような課題をもったのか。 【S4】小見出しや図表の役割と効果について考える。(学習2-4) 「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。
	【語彙・表現】フィールドノート 原生林 人間の手が加えられていない、自然のままの森林。原始林ともいう。 ニホンザル ニホンジカ 野生 生息 落ち穂 採食行動 思わず 光景 互い 奪い合う 文献 なぞらえる 検討 詳細 及ぶ 品目 食物などの種類を数えるときの単位。ここでは、十六種の植物を、さらに葉や花などに分けて数えるのに用いている。 堅果 ドングリなど、かたい皮に包まれた実。 仮説 途中 食べ飽きる イネ科 非常に多くの種類がある。細長い葉と茎をもつものが多い。作物、芝生、雑草などとして世界中に広く分布している。 本来 検証 供給 脂質やたんぱく質、炭水化物など 脂質、たんぱく質、炭水化物は、いずれも食物にふくまれる栄養成分。動物の体を作るもとになったり、活動のためのエネルギー源になったりする。 分析 脂質 体脂肪 体の中に蓄えられた脂肪のこと。 消費 考察 支持 乏しい 体脂肪 獲得 一端 影響 環境 維持 【新出漢字】言及 獲物 穂先 途上 道端 互角 飽和 地響き 奪回 脂身 環状 献上 欠乏 維新 詳細 脂肪 【新出漢字】朝貢 経緯 窮状 発汗 亀を飼う 捕球 剥製 砲丸 紡績 還元 収穫

日本語(国語)【中1】10月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 10月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 42：10 【S2】 25：11 【S3】 12：12 【S4】 3：13	
ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
調べたことを報告しよう レポートにまとめる	◎課題に合わせて、集めた材料を整理する。 ◎調べた内容がわかりやすく伝わるように、構成に沿って文章にまとめる。 ★日常中から話題を探し、報告の文章（レポート）を書く。 【S1】教材文を読み、レポートの形式に沿ってまとめる方法について理解する。 【S2】報告する課題を決める。 【S3】調査して材料を集める。集めた材料を整理する。レポートの構成を確認する。 【S4】レポートの構成に沿って、文章にまとめる。
【新出漢字】 タオルを絞る 避難 定礎 全般 愛称 首肯	
漢字の音訓	◎漢字の音と訓について理解する。 ○小学校で学習した漢字について理解を深める。 【S1】導入の例を基に漢字には「音」と「訓」があることを理解する。 【S2】「音」「訓」の歴史や性質を理解する。 複数の読みがある漢字や熟語について考える。 【S3】漢和辞典を利用して練習問題を解き、漢字の音・訓を調べ、短い文を作る。
【語彙・表現】 ①有益 有無 ②砂糖 土砂 ③荷物 出荷 ④相互 首相 ⑤自己 知己 ⑥街灯 街道 ①難解 ②号泣 ③申告 ④所望 ⑤技巧 ⑥迫力 ⑦遮断 ⑧企画 ①見物 ②大勢 ③分別 【新出漢字】 幾 巧 迫 遮 企	
指示する語句と接続する語句	◎指示する語句と接続する語句の働きや効果について理解する。 【S1】例文から、指示する語句と接続する語句がどのように使われているかを確認する。 【S2】指示する語句(「こそあど言葉」)の働きを教科書の表を基に整理して理解する。 【S3】接続する語句の働きの種類を教科書の表を基に整理して理解する。 【S4】「読むことに生かす」を読み、指示する語句と接続する語句に着目することで、文章の展開や構成をつかむ手がかりになることを理解する。
【新出漢字】 彼 漠 伐 累 扉 鍵 掛 項 【新出音訓】 並列 (ヘイレツ)	
季節のしおり 秋	◎二十四節気言葉や、秋の情景を歌った唱歌の歌詞、詩などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。

【語彙・表現】 立秋 りっしゅう 秋になる日。この日以後の暑さを残暑という。現在の8月7日ごろ。旧暦の7月。 白露 はくろ 秋がしだいに深まり、露がしげくなるころの意。現在の9月8日ごろ。旧暦の8月。 寒露 かんろ 露が寒々と感じられる季節という意。現在の10月8日ごろ。旧暦の9月。	
音読を楽しもう いろは歌	◎ 仮名遣いに注意して音読し、古文の言葉の響きや調子に読み慣れる。 【S1】 「いろは歌」を仮名遣いに注意して音読する。 【S2】 古文の言葉の響きや調子に読み慣れる。 【S3】 3段目の現代語訳と比べ読みをしてみる。
【語彙・表現】 色はにほへど 散りぬるを 我が世たれぞ 常ならむ 有為の奥山 今日越えて 浅き夢見じ 酔ひもせず	
月に思う	◎ 月を題材にした随筆を読み、古典には、さまざまな種類の作品があることを知る。 ◎ 文章に表れているものの見方や考え方を捉える。 【S1】 全文を通読し、古典が現代まで読み継がれてきたことを知る。 ・ 新出漢字を調べる。 【S2】 月を題材にした百人一首の歌を探して音読し、古典特有のリズムを味わう。
【語彙・表現】 捉える 旧暦 随筆 漏れ出る 覆う 鮮烈 隔てる たなびく 鮮烈 【新出漢字】 補捉 西暦 随行 漏水 覆面 烈火 間隔	
蓬萊の玉の枝 —「竹取物語」から	◎ 語句に注意しながら、現代の文章と古典の文章とで異なる部分を確認、古典の文章の表現の特徴を知る。 ◎ 仮名遣いに注意し、古典のリズムを味わいながら音読し、古典の文章に読み慣れる。 ○ 「竹取物語」を通じて、古典の世界に触れる。 【S1】 全文を通読する。 ・ 新出漢字を調べる。 ・ 古典の文章をリズムを味わいながら繰り返し音読する。 【S2】 現代の文章と古典の文章とで異なる部分を確認しながら物語の展開を楽しむ。 【S3】 物語に登場する人々の思いや行動について、現代の自分たちの考えや行動と比較し、感じたことや考えたことを発表する。 ◇ 場面ごとに、登場する人々の思いや行動を整理するワークシートを準備する。
【語彙・表現】 蓬萊の玉の枝 三寸 匠 銀「しろかね」 金椀 瑠璃 輝「かかやく」 策略 求婚 駿河の国 筒 冒頭 授かる（さずかる） 龍 娘 かぐや姫 結婚 諦める 訪れる（おとずれる） 恐ろしい 斜面 裾 召す 遣わす 贈る 文 承る 【新出漢字】 水筒 冒険 烏龍 娘心 姫君 婚約 諦観 恐縮 【新出音訓】 授かる 訪れる 文 承る	

日本語(国語)【中1】 11月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 11月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 42：10 【S2】 25：11 【S3】 12：12 【S4】 3：13	
ユニット 『観点』・日本語テキスト	指導内容
今に生きる言葉	◎ 故事成語の由来と意味を理解する。 ◎ 「矛盾」の書き下し文を音読し、漢文独特の言い回しに読み慣れる。 ◎ 自分の生活を振り返り、故事成語を使って体験文を書く。 【S1】 教材文を読み、新出漢字を調べる。 【S2】 「矛盾」の文章を読み、漢文独特の言い回しに慣れる。 ・ 現代語訳を読んで、「矛盾」という故事成語の由来と意味を理解する。 【S3】 「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の言葉の意味や故事を調べる。 ・ 漢和辞典・故事成語事典などを活用する。 【S4】 調べた故事成語を使って自分の体験について短い文章を書く。
矛盾 楚人に盾と矛とを鬻ぐ者あり。 これをほめていはく、「わが盾の堅きこと、よく陥すものなきなり。」と。 またその矛をほめていはく、「わが矛の利なること、物において陥さざるなきなり。」と。 ある人いはく、「子の矛をもって、子の盾を陥さばいかん。」と。 その人応ふることあたはざるなり。 【語彙・表現】 座右の銘 エピソード 韓非子 推敲 「蛇足」「四面楚歌」「漁夫の利」 【新出漢字】 銘記 矛先 後ろ盾 大蛇 堅実 気鋭 【新出音訓】 基 (もと)	
幻の魚は生きていた	◎ 文章の中心的な部分を読み取り、要旨を捉える。 ◎ 文章に表れている考え方を捉え、自分の見方や考え方を広げる。 ◎ 筆者の主張に対する自分の考えを、具体的な根拠を挙げて書く。 【S1】 教材文を読み、序論・本論・結論に分ける。 【S2】 序論の中心となる文に着目し、本論との関係について確認する。 【S3】 結論として筆者の考えがどのように書かれているか読み取る。 【S4】 文章の要旨をまとめる。 「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。

【語彙・表現】

幻 絶滅 頃 山梨県 見舞い 江戸時代 巡る 凶作 与える 携わる 譲渡 祈る 産卵 盛ん 一致 丁寧 解析 悠然 含める 喪失
クニマス 田沢湖 西湖 民話 ヒメマス 遺伝子 種

【新出漢字】

幻覚 消滅 頃合い 梨のつぶて 舞台 江湖 巡回 凶悪 関与 提携 親譲り 祈願 致命傷 安寧 分析 悠然

含意 喪中

【新出音訓】

産卵（サンラン） 盛ん（さかん） 丁寧（テイネイ）

『漢字を確認しよう』

「漢字の読み」

- | | | | | |
|---|----------------|---|--|---|
| ① | (ア) 文明が滅びる。 | [| |] |
| | (イ) 病原菌を撲滅する。 | [| |] |
| ② | (ア) 子供に玩具を与える。 | [| |] |
| | (イ) 資金を貸与する。 | [| |] |
| ③ | (ア) イノシン猟が盛んだ。 | [| |] |
| | (イ) 私は好奇心が旺盛だ。 | [| |] |

[似た意味の熟語]

- | | | | |
|------------------------------|----|-------------------------------|----|
| ①親友を鼓舞する。 | 遍歴 | ②丁寧 ^{テイネイ} にガラスをみがく。 | 激励 |
| ③海外を巡行 ^{ジュンギョウ} する。 | 符合 | ④二人の意見が一致 ^{イチシ} する。 | 丹念 |

小学校で習った漢字

【漢字の書き】

- | | | | | | | | |
|-------------|---|--|---|--------------------------|---|--|---|
| ①いさんを相続する。 | [| |] | ②ぎもん点を挙げる。 | [| |] |
| ③荷物がとどく。 | [| |] | ④医者 ^{イシャ} のたまご。 | [| |] |
| ⑤ハンカチをわすれる。 | [| |] | | | | |

2 次の□に○の部分をもつ漢字を書こう。【同じ部分をもつ漢字】

- ① (ア) ^{たん}□生を祝う集い。
- (イ) ^{ほう}□問をみとめる。
- ② (ア) ^{えい}□像を見て納得する。
- (イ) 温^{たん}□な気候。

【新出漢字】 病原菌 打撲 玩具 狩猟 旺盛 鼓動 遍在 励行 切符 丹精

日本語(国語)【中1】12月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 12月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
根拠を明確にして魅力を伝えよう 鑑賞文を書く	◎作品を鑑賞し、その魅力が伝わるように根拠を明確にして文章にまとめる。 ・書いた文章を互いに読み合い、作品の捉え方や表現のしかたについて考えを深める。
【語彙・表現】 『感じたことを表す言葉』 ・魅力的だ ・巧みだ ・興味を引かれる ・心に響く ・心が温まる ・胸を打たれる ・胸に迫る ・目を奪われる ・目に焼き付く ・奥深い ・印象的だ ・象徴的だ 【新出漢字】 拠 鑑 肩	
竹	◎表現の特徴について、自分の考えをもつ。 ★詩を音読する。 【S1/S2】 表現の特徴を捉え、リズムを楽しみながら繰り返し音読する。 【S3/S4】 音読して抱いたイメージや表現の特徴などについて考える。
【語彙・表現】 光る地面に竹が生え、 青竹が生え、 地下には竹の根が生え、 根がしだいにほそらみ、 根の先より繊毛が生え、 かすかにけぶる繊毛が生え、 かすかにふるへ。 かたき地面に竹が生え、 地上にすどく竹が生え、 まつしぐらに竹が生え、 凍れる節節りんりと、 青空のもとに竹が生え、 竹、竹、竹が生え。 【新出漢字】 繊 凍	

文法への扉 2 言葉の関係を考えよう	◎文節どうしの関係、連文節、文の組み立てについて理解する。 【S1/S2】例文を音読し、正しく伝えるためには、文節どうしの関係（主・述の関係など）を捉えることが大切なことに気づく。 【S3/S4】文法2「文の組み立て」を読み、文節の役割を知り、文節どうしの関係、連文節、文の組み立てについて理解する。
文法 2 文の組み立て ①文節どうしの関係 1 主・述の関係 2 修飾・被修飾の関係 3 忍耐の暇 4 独立の関係 ②連文節 ③文の組み立て	
季節のしおり 冬	◎ 二十四節気言葉や、冬の詩歌などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。
【語彙・表現】 オリオンは高く うたひ つゆとしもとを おとす、 アンドロメダの くもは さかなのくちの かたち。 宮沢賢治「星めぐりの歌」より きっぱりと冬が来た ハつ手の白い花も消え 公孫樹の木も簾になった 高村光太郎 「冬が来た」より 冬のこよみ 立冬（りっとう） 暦のうえでは、この日から冬になる。現在の十一月七日頃。旧暦の十月。 大雪（たいせつ） 雪の多く積もる頃という意味。現在の十二月七日頃。旧暦の十一月。 小寒（しょうかん） 一年中で最も寒い、「寒」の初めの頃。現在の一月五日頃。旧暦の十二月。	

日本語(国語)【中1】 1月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 1月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
少年の日の思い出	◎場面展開や人物の描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりを捉える。 ◎文脈の中における語句の意味を正確に捉えて作品を読み、登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。 【S1】 情景や登場人物の気持ちを想像しながら通読し、注意する語句・新出漢字を調べる。 【S2】 語り手の転換に注意しながら、全体を前半と後半の二つに分け構成を捉える。 【S3】 「僕」と「エーミール」の関係を読み取り、最後の「僕」の行動の意味を考える。 ・「僕」から見た「エーミール」の人柄が描写されている部分を探して抜き出す。 ・「僕」の「エーミール」に対する気持ちが表現されている部分に着目して、「僕」の考えを捉える。 ・最後に収集したちょうを潰す「僕」の行動と心情を捉える。 ・作品に使われている「熱情」という言葉について考え、読み取りの手立てとする。 【S4】 作品をもう一度読み返し、「僕」のものの見方や考え方について、共感するところや疑問に思うところを話し合う。
【語彙・表現】 色あせる よみがえる 書斎 腰掛ける たちまち 熱情(的) 不透明 閉ざす 妙 刺す 蓋 不愉快 けがす 打ち込む 微笑 恥ずかしい 甲高い 遊戯 塔 駆け歩く 身にしみる むさぼる 微妙 忍び寄る 網 待ち伏せる 斑点 緊張 瓶 栓 非の打ちどころがない 悪徳 自慢 傷む 模範 妬む 憎む 欠陥 挿絵 攻撃 呈する 羨ましい あいにく 良心 下劣 優雅 犯す 悟る …ばかり 繕う 告白 白状 独白 表白 忍ぶ 一切 罰 おそらく 丹念 …よしもない 冷淡 冷然 …を盾に あなどる 根掘り葉掘り 根も葉もない 根を下ろす 根を張る 軽蔑 罵る 償い 【新出漢字】 斎場 腰が痛い 透視 妙案 刺激 火蓋 愉快 微細 無恥 甲虫 戯画 管制塔 忍苦 網戸 伏線 斑点 緊張 花瓶 元栓 慢心 規範 仲を妬む 愛憎 陥落 挿入 攻防 進呈 人を羨む 雅楽 覚悟 修繕 罰金 蔑視 罵声 補償 【新出音訓】 閉ざす 微笑 傷む 犯す 一切 【新出漢字】 耐久 賠償 雪辱 完璧 嫉妬 乙なことを言う 緩和 琴線 据え置く	
言葉3 さまざまな表現方法	◎言葉の並べ方の工夫や比喻(たとえ)について理解する。 【S1】 導入の例を読み、表現の違いによる印象の違いを挙げる。 【S2】 「言葉の並べ方の工夫」を読み、表現技法によるリズムの違いや効果について考える。 ・例文を基にそれぞれの技法の特徴を理解する。 【S3/S4】 比喻(たとえ)を読み、それぞれの比喻による印象の違いや効果について考える。

・例文を基に比喩の特徴を理解する。

【語彙・表現】

体言止め

文末や句末を体言（名詞）で結ぶ方法。詩や短歌、俳句で用いられることが多く、しみじみとした余韻を残したり、きっぱりとした印象を与えたりする。

倒置

普通の言い方と、言葉の順序を入れ替える方法。歯切れのよいリズムが生まれ、情景や心情が強調される。

反復

同じ言葉を繰り返す方法。畳みかけるようなリズムが生まれ、繰り返されている情景や心情が強調される。

対句

言葉を形や意味が対応するように並べる方法。リズムや意味の面でまとまりが生まれ、整然とした印象を与える。

隠喩

「まるで……」「……ようだ」などの言葉を使わずにたとえる方法。二つのものを同じものとして示すため、より強い印象を与える。

擬人法

人間でないものを人間にたとえて表す方法。自然現象や物体、動植物などを、人間の行動や気持ちになぞらえて表すため、生き生きとした印象を与える。

比喩

一言で表すことが難しい情景や物事の様子、また、気持ちや考えなどの抽象的な事柄は、比喩を用いて表現してみるとよい。

【新出漢字】 韻 替 喩 蜂 擬 抽

【新出音訓】 対句

漢字 3

漢字の成り立ち

◎漢字の成り立ちについて理解する。

【S1/S2】漢字の成り立ちについて理解する。

- ・「象形」「指事」「会意」「形声」を用例と共に確認する。
- ・国字について知る。

【S3/S4】漢和辞典を利用して練習問題を解き、漢字の成り立ちを調べ、分類する。

【語彙・表現】 漢字の成り立ちには、象形・指事・会意・形声とよばれるものがある。

中国から受け入れた漢字の他に、日本で独自に作られた漢字もある。そのような漢字を、国字とよぶ。国字は、会意の方法を用いて作られたものが多い。

漢字の分類「六書」

象形・指事・会意・形声は、漢字の「作り方」についての説明である。この他、漢字の「使い方」についての説明として、転注と仮借がある。

【新出漢字】 峠 刃 販 緒 諭 荷 伯 拍 泊

日本語(国語)【中1】 2月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 2月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 42：10 【S2】 25：11 【S3】 12：12 【S4】 3：13	
ユニット 『観点』・日本語テキスト	指導内容
印象深く思いを伝えよう 新入生にメッセージを書く	◎伝えたい自分の考えや気持ちを、相手や目的を考えながら書く。 ◎文章を読み返し、わかりやすく、印象深いものになっているかを推敲する。 【S1】 相手意識・目的意識をもってメッセージの題材を選ぶ。 【S2】 メッセージの内容と構成を考える。 【S3】 表現の工夫を考える。 【S4】 下書きし、推敲する。メッセージを読み合い、感想を伝え合う。
構成の工夫の例 【書きだし】 ・印象的なイメージや場面の描写 ・問いかけ・呼びかけ など 【中心部分】(伝えたい具体的なこと) ・自分の体験・考え ・中学校の行事や活動の説明 ・相手への気遣いやアドバイス など 【終わり】 表現の工夫の例 【比喩】 ・挨拶でまるで羽のように心が軽くなる。(直喩) ・挨拶は、心を開くスイッチです。(隠喩) 【体言止め】 ・朝の道に響く挨拶の声。 【倒置】 ・挨拶は開く、人の心を。 【対句】 ・「おはよう」、朝の校門は爽やかです。 ・「こんにちは」、昼休みの廊下はにぎやかです。 ・「さようなら」、夕方の帰り道は温かです。 この他、表現技法には、反復や省略などがある。また、擬態語・擬声語や方言などを使うと親しみが増すこともある。 【新出漢字】 箇所 挨拶	

文法への扉 3
単語の性質を見つけよう

◎単語の分類について理解する。

【S1/S2】 例題のカード並べを考え、単語の性質の違いに気づき、単語を分類していく。
【S3/S4】 自立語と付属語、活用の有無、品詞、体言と用言について理解する。

【語彙・表現】 → 249 ページ 文法3 単語の分類

自立語・付属語

- ・単語は、自立語と付属語に大きく分類できる。

自立語

単独で文節を作ることができる

- ・文節の初めには必ず自立語がくる。

付属語

単独では文節を作れない。必ず自立語と共に文節を作る。

- ・文節では自立語の後に付く。
- ・一文節に付属語が複雑含まれることもある

活用の有無

・単語には、文の中で使われるとき、形が変わるものと変わらないものがある。このような、形が変化するかしないかの観点から、単語は大きく二つに分類できる。

・文の中で使われるとき、単語の形が変化することを活用という。活用する単語は、そこで終わるか続くか、続く場合はどんな単語につながっていくかによって、形が変化する。

品詞

単語を、「自立語・付属語」「活用する・しない」という基準で分け、さらに、それがどのような文になるか、また、どんな言い切りの形になるかによって分類したものを、品詞という。

体言と用言

- ・活用しない自立語のうち、「が・は・も」などを付けて主語になることができる単語を名詞）を体言という。
- ・活用し、単独で述語になることができる自立語（＝動詞・形容詞・形容動詞）を用言という。用言は、それだけで修飾語にもなれる。

体言

- ・「が・は・も」などを付けて主語になれる自立語。
- ・品詞でいう名詞。

用言

- ・単独で述語になれる自立語。
- ・品詞でいう動詞・形容詞・形容動詞。

日本語(国語)【中1】3月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中1 3月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 21：5 【S2】 13：5 【S3】 6：6 【S4】 2：6	
ユニット 『観点』・日本語テキスト	指導内容
ぼくが ここに ◎文脈の中における語句の意味を捉え、表現の特徴について自分の考えをもつ。 ★詩を朗読する。 【S1】 作者の思いを想像しながら詩を音読する。 【S2】 詩の中で心に残ったこと言葉や表現を抜き出し、理由をまとめる。 【S3】 表現されていることについてグループで交流し、互いの発表したことをメモする。 【S4】 表現などを意識して詩を朗読する。	
【語彙・表現】 ぼくが ここに まど・みちお ぼくが ここに いるとき ほかの どんなものも ぼくに かきながら ここに いることは できない もしも ゾウが ここに いるならば そのゾウだけ マメが いるならば その一つぶの マメだけ しか ここに いることは できない ああ このちきゅうの うえでは こんなに だいに まもられているのだ どんなものが どんなところに いるときにも その「いること」こそが なににも まして すばらしいこと として	

- ①次の表現はどういうことを表しているか考えよう。
- ・「ぼくに かきながら／ここに いることは できない」
 - ・「ああ このちきゅうの うえでは／こんなに だいに／まもられているのだ」
- ②次の表現のしかたについて、感じたことや考えたことを話し合ってみよう。
- ・「いること」に「 」が付いている理由。
 - ・一文字空きの部分や改行のしかた、反復などの表現技法について。

他学年との縦断的指導内容			他教科との横断的指導内容
※ 日本の文化	※ アニメーション	※ 擬声語・擬態語一小3	● 『社会科』－世界の国々、民族衣装、国旗、祝日
※ 季節(四季)の行事など	※ 語い(ものの名前など)	※ 慣用句一小4	● 『生活科』－季節の「生きもの」「植物」「行事」
※ 漢字練習	※ 文、文型練習	※ ことわざ一小4	● 『理科』－季節と生きもの(植物・生物など)
※ 朗読	※ 早口ことば一小1	※ 故事成語一小4	● 『理科』－星座

文法1 言葉の単位

1 文法とは

私たちが言葉によって伝え合い、理解し合うことができるのは、言葉の意味ばかりでなく、言葉がどのような順序で組み立てられ、どのように使われるかを知っているからである。このような言葉に関する決まりを文法という。

文法は言葉を使う中で自然に身についていくものではあるが、より正確に伝え合うために、改めてその決まりを確認し、整理しよう。

2 言葉の単位

私たちが普段、書いたり話したりしている言葉は、意味や発音により、いくつかのまとまりに分けることができる。これを言葉の単位といい、次のような段階がある。

言葉の単位 1 文章・談話 2 段落 3 文 4 文節 5 単語

文章・談話

- ・一編の論説・小説のように、一まとまりの内容を、文字で書き表したものを文章という。
- ・日常の会話など、音声で表れたまとまりの内容を、談話とよぶことがある。
- ・文章・談話は多くの場合、複数の文が集まってできている。

段落

- ・書き手が、意図をより明確に伝えるために、文章を内容のまとまりごとに区切ることがある。これを段落という。
- ・段落の初めは改行し、一字下げる。

※文章に段落を設けるかどうか、またどのような段落を設けるかは、書き手の判断による。

※詩の「連」も、段落と同じ発想。

3 文

- ・「何（だれ）がーどうする・どんなだ・何だ・どうしたい・どうしろ」など、一まとまりの内容を表す一続きの言葉を文という。
- ・文を書き表すときは、最後に「。（句点）」を付ける。（「?（疑問符）」や「!（感嘆符）」を付ける場合もある。）
- ・文章を音読したり、話したりするときは、「。（句点）」で切り、少し休みを入れる。

4 文節

- ・発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまりを文節という。
- ・文を文節に区切るためには、区切り目に「ね」「さ」などを入れてみるとよい。

単語

・言葉の意味を壊さないように、文節をさらに細かく分けたものを、単語という。単語は、それだけで使える言葉としては、最小の単位である。

- ・単語は、その働きにより、いくつかの種類に分けられる。
 - ・ものの名前を表すもの。
 - ・動作（変化）や様子を表すもの。
 - ・別の単語の下に付いて、文節を作るもの。

◆複合語は一つの単語

「駅前で十時に待ち合わせる。」

の線部は、単語に分けるとすると、「待ち・合わせる」か「待ち合わせる」のどちらだろうか。

「待ち合わせる」は、一まとまりで「時間と場所を決めて会う」という意味を表す。つまり、一つの単語としてあつかうのが正しい。

このように、二つ以上の単語が結び付き、新たな意味をもつようになったものを複合語という。複合語は全体で一つの単語である。

〈例〉飼育係・山登り・持ち越す

文法2 文の組み立て

1 文節どうしの関係

文は、「何が—どうする」「どのくらい—どんなだ」「どうすれば—どうなる」など、さまざまな意味をもつ文節が相互に関係をもつことで組み立てられている。文を組み立てる部分となると、文節や文節のまとまり（連文節）が果たす役割を、文の成分という。

主・述の関係（主語・述語）

- ・文の中で、「何か」「誰が」に当たる文節を主語という。
- ・文の中で、「—どうする」「—どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」に当たる文節を述語という。
- ・主語と述語の結び付きを主・述の関係という。

〔体言と用言〕

- ・主語となる文節の中で中心となる単語を体言といい、それだけで述語となる単語を用言という。

◆主語の見つけ方

主語は、一「○○が」で示されるとは限らない。見つけにくいときは、まず述語を探し、「—どうする（—である）のは何（誰）か」を文中から捉える。そして、「（誰）が—どうする（—どんなだの形に当てはめて確認する。

修飾・被修飾の関係（修飾語）

- ・他の文節を詳しく説明したり、内容を補ったりする働きをもつ文節を、修飾語という。
- ・修飾する文節と修飾される文節との関係を、修飾・被修飾の関係という。
- ・修飾語は、一つの文の中に、幾つか重ねて使われることがある。
- ・修飾語は、何を修飾するかによって、大きく二つに分かれる。
 - ・連用修飾語……用言を含七文節を修飾。
 - ・連体修飾語……体言を含む文節を修飾。

接続の関係（接続語）

- ・文と文、文節と文節をつなぐ働きをもつ文節を、接続語という。
- ・接続語には、「だから」「しかし」のように前後の文をつなぐ場合と、「～ので」「～ば」などの形で後に続く幾つかの文節に対する理由や条件を示す場合がある。
- ・接続語がつなぐ文と文との関係、理由や条件などを示す接続語と後に続く文節との関係を、接続の関係という。

独立の関係（独立語）

- ・他の文節とは直接関係がなく、比較的独立している文節を独立語という。

- ・独立語と、それ以外の文節との関係を、独立の関係という。

文節どうしの関係には、並立の関係、補助の関係とよばれるものもある。

2 連文節

二つ以上の文節がまとまって、主語・述語・修飾語などと同じ働きをする場合、これらのまとまった文節を連文節という。連文節となった文の成分を、主部・述部・修飾部・接続部・独立部とよぶ。

次のような関係は、常に連文節となる。

並立の関係

- ・二つ以上の文節が対等な関係で並び、一まとまりで文の成分になる場合、これらの文節どうしの関係を、並立の関係という。

補助の関係

- ・「歌っている」のように、主な意味を表す文節に、意味を補う文節が付いて、一まとまりになった場合、これらの文節どうしの関係を、補助の関係という。

- ・「いる」のような、意味を補う文節は、もともとの言葉の意味が薄れているため、平仮名で書かれることが多い。

3 文の組み立て

複雑な文でも、文の成分（主・述・修飾・接続・独立）の組み合わせによって成り立っている。文節がどのように組み立てられ、関係し合っているかを確認することによって、よりの確に文の意味や話の内容を理解することができる。

敬語を使う

丁寧語＝話し手（書き手）が聞き手（読み手）に丁寧な言葉遣いをし、丁寧さを表す敬語。

尊敬語＝相手や話題に上った人の動作・行動を高めて、その人に対して敬意を表す敬語。

謙譲語＝自分や身内の動作・行動をへりくだって言い、動作・行動の向かう先に対して敬意を表す敬語。

（この他、「美化語」「丁寧語」とよばれるものもある。敬語については、詳しくは二年生で学習する。）

■学級での話し合い

普段は敬語で話さないような同学年の人に対しても、学級全体の話し合いなどの公の場では丁寧語を使って話す。

・電話で話す

目上の人や、親しい間柄でない人と電話で話す場合は、相手に失礼にならないように敬語を用いる。特に、自分や身内に関して言うときは、謙譲語を使うことに注意する。

・来客と話す

学校や家に訪ねてきたお客様に対しては、礼儀正しく、相手を敬う気持ちが伝わるように話す。

・手紙を書く

目上の人への手紙や礼状は、丁寧な言葉遣いで書く。礼状では感謝の気持ちが伝わるように書くことも大切である。

・案内状を書く

不特定多数の人への案内状は、丁寧な言葉遣いで書く。「来てほしい」という思いが伝わるように書くことも大切。

学習のための用語一覧

話すこと・聞くこと/書くこと

アンケート 案内文 インタビュー ウェビング
鑑賞文 観点 記録 グラフ グループディスカッション 敬語 結語 原稿用紙 構成メモ
司会 時候の挨拶 取材 紹介 推敲 図解 スピーチ 説明
手紙 電子メール 頭語
ノート
はがき 発表 話し合い フローチャート 報告 ポスターセッション
マッピング メッセージ メモ
レポート
割り付け(レイアウト)

読むこと/読書と情報

意見事実 インターネット 引用 ウェブサイト 奥付 音読
語り手 結論 構成
索引 出典 情景 序論 心情 新聞 図表
段落 著作権 登場人物 読書感想文 読書記録 読書紹介 図書館
日本十進分類法
場面 本論
目次
要旨 要約
朗読

伝統的な言語文化

いろは歌 送り仮名(漢文)
返り点 書き下し文 漢文 訓点 訓読 現代語(口語) 故事成語 古典語(文語)
白文 百人一首
落語 歴史的仮名遣い

感想を表す言葉

【気持ちを表したいとき】

「感動を表す」
はっとする じいんとする 琴線に触れる 目頭が熱くなる 胸がいっぱいになる 胸が熱くなる 心を打たれる
心を揺さぶられる 心にしみ入る 感嘆する 感銘を受ける 感慨深い 感慨無量

「満足度を表す」
文句ない 申し分ない 期待を裏切らない 納得がいく 我が意を得る 意に沿う 満喫する 釈然としない 意に満たない もの足りない 飽き足りない 受け入れがたい

【印象を表したいとき】

「様子を表す」
強烈 衝撃的 驚異的 画期的 華やか 洗練された 新鮮 繊細 簡素 素朴 堂々とした いかめしい
弱々しい

「内容を表す」
明快・難解 理にかなう 筋の通った 論理的←→情緒的 主観的←→客観的 具体的←→抽象的 科学的 写實的
革新的←→保守的 先進的←→伝統的

【評価をしたいとき】

「特徴を評価する」
型破り 独特 類を見ない 比類ない 非凡 斬新 平凡 凡庸 陳腐 ありきたり 一般的 典型的

「完成度を評価する」
完璧 満点 文句なし 抜群 圧倒的 会心の出来 妥当 適切 未熟 中途半端 いいかげん 荒削り

書体の特徴

デザインされた文字の形を「書体」という。日常生活で何気なく目にしている文字も、目的に応じてさまざまな書体を使い分けられている。

本文の書体を「明朝体」という。読みやすさを考えてデザインされた書体で、書籍や雑誌などに広く使われている。いっぽう、欄外や漢字欄の新出漢字の書体は「教科書体」といい、実際に字を書くときの筆遣いを基に作られている。この教科書ではその他に、「ゴシック体」が使われており、見出しなど、強調したい部分に多く使われている。

文章の推敲・原稿用紙の使い方

文章を書いたら、よりよく仕上げるために、必ず推敲を行おう。
また、原稿用紙の使い方を身につけ、文章を読みやすく書き表そう。

推敲とは、書いた文章を練り直すことである。下の観点を参考に、伝えたいことが十分に書き表されているか、読み手に伝わる表現になっているかを確認しよう。原稿用紙の上で推敲するときは、左の例のような記号を使うとよい。

推敲の観点

- ・題材が多すぎたり、少なすぎたりしていないか。
- ・内容ごとに段落が分けられているか。
- ・文と文、段落と段落のつながりは適切か。
- ・全体の構成はわかりやすいか。
- ・文や段落の長さは適切か（長すぎないか）。
- ・文体（常体・敬体）は統一されているか。
- ・主語と述語の対応など、文法的な間違いはないか。
- ・漢字や仮名遣い、送り仮名の誤りはないか。
- ・句読点などの符号の使い方は適切か。

原稿用紙の使い方

- ・題名は、最初の一、二行目に、上から三字程度空けて書く。
- ・氏名は、題名の次の行に、下を一、二字空けて書く。
- ・書き出しや段落の初めは、一字下げる。
- ・会話文は、原則として行を変え、「」で囲んで書く。
- ・句読点や、会話を閉じるかぎ（」）が行頭にくる場合は、前の行の最後のますに文字といっしょに入れる。または、欄外に書く。